

少年の主張



ぼくのボーイスカウト活動

基山小学校6年 城本 開星

11月5日(土)、基山町民会館大ホールで、第36回基山町青少年健全育成町民大会を開催しました。

発表の部では、小・中学生が、学校・地域・家庭・友人との関わりの中で、日頃考えていることや感じていることを発表しました。幅広いテーマについて、発表者の持ち味を発揮した主張を行い、聴き手を引き付けていました。会場に集まった約200名は、深い感銘を受けた様子でした。

今号から複数回に分けて、小・中学生が発表された内容を紹介します。

(広報きやまの表記法に合わせて、原文の一部表記を変更しています。)

ぼくは、日本ボーイスカウト佐賀県連盟基山第1団で、ボーイスカウト活動をしています。

3つ上の兄がすでに入隊していたので、小学1年生になると、すぐにカブスカウトに入隊しました。6年生になると、正式にボーイスカウトに進むことになりました。

カブスカウトの制服とボーイスカウトの制服は違います。なので、ボーイスカウトの制服を初めて着た時は、誇らしく、お兄さんになったような気がしました。それと同時に、年上のしっかりしたボーイスカウトのお兄さんたちを見て、この制服を着るからには、自分も今まで以上に、心と体を強く鍛えないといけないと思いました。

スカウトには、8つのおきてがあります。

1つ目は、「スカウトは、誠実である。」

2つ目は、「スカウトは、友情にあつい。」

3つ目は、「スカウトは、礼儀正しい。」

4つ目は、

「スカウトは、親切である。」

5つ目は、

「スカウトは、快活である。」

6つ目は、

「スカウトは、質素である。」

7つ目は、

「スカウトは、勇敢である。」

8つ目は、

「スカウトは、感謝の心をもつ。」

ぼくは、日頃からこの8つのおきてをできるだけ守っていきたくて考えています。この8つのおきてを守ることは、簡単なようで難しいです。

ボーイスカウト基山第1団の活動拠点は、基山小学校の北側、旧図書館の横にあるプレハブの建物です。主に3つの活動をしています。

1つ目は、公園に花やシバを植えたり、町内で進めている緑化活動に参加して、桜・ツツジ・モミジなどの植栽、公園のごみ拾いをしたりするなどの自然に関係する活動です。ぼくは木を植えるとき、「大きくなれ!」と心で念じながら植えています。

自分の植えた木が、大きく育っていったら、とてもうれしいです。今年の2月には、新しい基山町立図書館の建設記念

で、中央公園の丘に桜の木の植樹を行いました。8月の初めには、基山ライオンズクラブの総合公園・多目的グラウンド周辺の早朝ごみ拾いに、ボーイスカウトも参加しました。このグラウンドは、サッカーでも使うので、きれいになるとうれし

いし、やりがいも感じます。でも、公園にごみを捨てる人がいなければ、いつもきれいなのに残念に思うこともあります。

2つ目は、町の行事への参加です。町民運動会ときは、国旗を持って行進し、国旗掲揚も行います。きのくに祭りのときは、パレードに参加して、ダメゼツタイ運動で、飲酒運転と薬物の乱用をしてはいけないということを呼び掛けています。ぼくたちが呼び掛けることで、やめてくれる人がいるかもしれないと思っています。特に、飲酒

運転は、関係のない人の大切な命を奪うことにもなりかねないので、絶対にしてはいけないことだと思っています。

3つ目は、赤い羽根募金など

での募金活動です。ぼくたちが集めた募金は、日本赤十字社に送られ、支援が必要な人たちのために使われます。自分が苦労して稼いだ大切なお金を募金してくれる人は、とても素晴らしいと思います。

夏祭りやキャンプなどの楽しい活動もあります。年上のスカウトの方や隊長たちに教えてもらったことを、年下のスカウトたちに伝えていけたらいいなと思っています。

スカウトのモットーは、「備えよ、常に」です。災害などのときに困らず、人を助けられるよう日頃から訓練し、自分の心と体を鍛えておきたいと思っています。

ボーイスカウトでの活動や体験で失敗しても、そこから学ぶことや勇氣を持って前に進むことを学んでいます。

これから今まで以上に、勉強やサッカーで忙しくなると思うけど、ボーイスカウトの活動も続けていきたいと思っています。

そして、人に優しくでき、行動力を持った、常に備えのある人になりたいと思います。

夢に向かつて

基山小学校6年 小池 里佳

私は、夢に向かつていろいろなことに挑戦しています。ある一つのことがきっかけで、何でも挑戦するようにになりました。その前までは、手を挙げることも、行事に参加するだけでも嫌なくらい恥ずかしがり屋でした。失敗したときのことを考えると、自信が無くなってしまう、何もできませんでした。

私よりも恥ずかしがり屋だった姉は、5年生の時、何か変わるのではないかと思い、ホームステイに参加しました。ホームステイから戻ってくると、自信を付けて別人のように積極的になり、すべてが楽しくなったそうです。その話を聞いた時、私には絶対無理と思いました。私が4年生の時、同じような募集がありました。その時、姉は病気がかかっていたのですが、「絶対、元気になって、また行きたい」と何度も言っていました。私は、チャンスがあるときに、挑戦した方がいいと思います。だけど、怖いことしか考えられません。でも、何か変わるかもしれないと信じ

て、思い切ってオーストラリアのホームステイに参加し、現地の学校に通うことにしました。英語が全く分からない私は、身振り手振りで必死に伝えようと思いました。「伝わるかな」「大丈夫かな」と思っていました。すると、相手も頑張ってくれました。すると、相手も頑張ってくれました。お互い分かっていくことができました。お互いどうまくコミュニケーションを取ることができました。英語がうまく伝わらなくても気持ちよく伝えるもので、体を使ったボディーランゲージでもどうにかなるんだなと思いました。一生懸命さは、絶対、人に伝わりません。これをきっかけに、私もやればできるんだと自信が付きました。

ホームステイのように、大きな出来事以外にも、いつでもできる小さいことでも、繰り返し挑戦するようにしました。私がやりたいのは、逆立ちやバク転です。それに向けて、まず、逆立ちやブリッジを練習しました。最初は何もできなかった逆立ちを、一人でどうやってする

か考えました。布団を使ったり、自分でいろいろ考えて工夫して練習を繰り返すことで、次にどうつなげていくかが、分かるようになっていきました。目標を大きく持つことで、逆立ちからブリッジができるようになりました。以前できなかったことができるようになると、とてもうれしい気持ちになります。「自分には絶対できる！」と、今では練習を積み重ねています。小さいことを何度も繰り返していけば、どんどん大きくなっていきます。だから、小さい夢を重ねていって、どんどん大きな夢にしていきたいです。

6年生になってからは、何でも挑戦するように決めました。今年の春、交通安全の子供自転車大会があると聞いて、挑戦してみようと思いました。あまり自転車に乗ったことがないので、できるかどうか心配ばかりしていました。学科テストもあるので、毎日勉強もしました。4人組の団体戦で、みんな協力して頑張っていました。練習の1日目から手にまめが出来て、2日目や3日目はまめが破れて、体も痛くなってきて大変

でした。でも、あきらめずにやっていたので、できないところが一つずつできるようになっていきました。自分のできないところは、友達に教えてくれたので、悪いところを改善することができました。みんな協力することで、仲間になり、一人よりももっと頑張ることができました。「全国大会に行くぞ！」という気持ちで取り組んだことができました。そして、先生や地域の人も練習に協力してくださり、多くの人と交流することで、人の気持ちの大切さも余計に感じるようになりました。いろいろなと挑戦しています

が、人前で話すことはまだ苦手です。だから、学校の朗読クラブに入り、たくさん練習をしています。初めは入りたくありませんでした。でも、前向きに考えて、大勢の前ですらすら話したいと思って、入ることに決めました。

この発表も、初めは絶対に無理だと思っていました。挑戦してみることにしました。自分でも信じられません。

あんなに怖がりだった私が、何でもできるようになりました。

た。勇気を持ってやったことが、次に生かせるようになりました。目標を大きく持ち、前に進めば、失敗しても絶対成功すると思っています。これからも失敗を恐れず、楽しみながら、夢に向かつていろいろなことに挑戦していこうと思います。

最後になりましたが、今の私の夢は、ファッションデザイナーです。自分でデザインを考え、自分で作った洋服をいろんな人に着てもらいたいです。そして、みんなを喜ばせたいです。

◀アトラクションの部では、佐賀県警察音楽隊による生の演奏を楽しんでいただきました。

